



後援会だより

事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 Tel&fax 024-548-8176

ご挨拶

福島大学 共生システム理工学類
後援会会長 富田 康男



早いもので、子供たちがお世話になってから1年が過ぎようとしております。

学生諸君、そして会員の皆様におかれましては、どのような1年だったでしょうか。

後援会としてこの一年を振り返ると、まさによちよち歩

きの状態でしたが、活動としては、随時、共生システム理工学類ホームページにおいて『後援会ニュース』により学内の出来事や学生諸君の諸活動の様子をお知らせし、また昨年9月には『会報誌』を創刊させて頂きました。

そして、2年目となる06年度は、新年度入学生を迎え、会員数が倍増すると共に、待望の研究棟の竣工にともないインフラがさらに充実され、2年次学生諸君にとっては各々の専攻決定により、進路目標が明確化され、1年次とは違った支援が必要になってくると思われます。さらに今年秋頃には2年生の保護者を対象とした“親のための就職セミナー”なども予定されており、いよいよ後援支援活動も本格化してまいります。

一方、最近の日本経済は景気回復が見込まれ、新たな成長への飛躍が始まっているといわれており、攻めの経営や技術経営（MOT）などに注力する企業が急増しております。このような中で学生諸君は、学業／研究はもちろんのこと、クラブ活動やボランティア活動、アルバイトなどさまざまな活動を通じて多くの仲間や友を得て、充実した学生生活と人間形成を行い、社会が期待する人材に育って頂きたいと願うものであります。これらを踏まえ、後援会活動の充実のため大学との連携をいっそう深め、本腰を入れて取り組んで参りたいと考えております。会員の皆様におかれましても、ご意見やご要望がございましたら本会事務局までお寄せ願います。今後とも皆様方より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

弱点を克服し、さらなる飛躍を…

共生システム理工学類長 入戸野 修



先日、講義「安全と共生の科学」で、これからの技術者の資質・責任と役割について話した。その中で、企業が求める人材は「志と心」「行動性」「知力」の3つの軸で評価されていることを紹介した。こ

こでの「志と心」では、社会人として将来何をやりたいかの夢・目標を持っていること、礼儀正しく、はきはきしていること、新しいものに興味を持ち積極的に理解し取入れられることを、「行動性」では、相手の意見・質問を聞いて自分の意見を分かり易く述べられること、自ら立てた目標に向かって粘り強く努力した経験を持つこと、異なる文化・考え方を持つ人とも一緒に1つの活動に取り組めることを、「知力」では、論理的思考力が高いこと、一般常識や専門課程で学んだ知識・語学力を身に付けていること、自らの経験や考え方に基づく独創的な発想ができることを評価する。

具体的な事例紹介では、事務系の学生と技術系の学生を比べると、技術系学生にはよりバランスの取れた能力が重視されていること、採用選考時の期待度と実際の学生に対する評価ではいくつかの点で大きな相違があることを示した。そして、講義の後、現在の自分自身を自己評価して貰った。その結果、自分には現在「知力」が欠けているが、比較的バランスが取れた三角形になっていると自己分析する学生が多かった。自分自身を客観的に評価する能力と高学年での専門科目習得への強い学習意欲が感じられた。大学での1年間の学生生活を通じて自分自身を客観的に見つめ自己点検できるように成長している。

これから実践科目を学ぶことになる。学生自らが勉学に励むとともに、自分に欠けている能力に配慮し、自己研鑽に努められるような教育環境整備とその充実にも努めたい。

活躍しています！

— クラス紹介 —

Aクラス

Aグループアドバイザー 小山 純正



大学ではあまり聞き慣れないクラス担任なるものを担当して、1年になろうとしています。クラス担任といっても、小中学校のように毎日ホームルームで顔を合わせているわけではないのですが、週1回の「演習」の授業に加え、コンパや、球技大会の練習などで、だんだん一人一人の“顔”が見えてきたかなという感じです。福大生全般にいえる事かも知れませんが、みな素直で、(少なくとも私の担当している)授業には、よく出席してくれます。後期の演習の授業では、「ダイエット広告の検証」というテーマで、5つの班に分かれていろいろ調べ、学年全体の発表会で発表してもらいました。授業の時は、やってくるべき課題をやってこなかったり、忘れてたりということがしばしばあり、本番は大丈夫かな、と内心心配していましたが、直前の各班の頑張りによって何とか形になり、発表もアドリブも含めて、意外としっかりやっていました。おそらく、各人とも私の気づかない秘めたる能力を宿しているものと思います。なんとか、その能力を在学中に発揮してもらおうことが、クラス担任の願いです。

Bクラス

走馬灯 ～ 駆け巡る思い出 ～

Bグループ学生 安沢 孝太・木村 直



5コマ目の講義が終わり、開放感に満ち溢れながら夕食を真っ先に食べに行く。これが私の日常です。しかし火曜日は違います。火曜日の5コマ目にある教養演習は、B組メンバーが唯一集まる時間です。講義が終わった後、クラスの仲間と呼ばれ、時間を忘れて談笑してしまいます。

大まかなBクラスの一年間を少しだけ振り返ってみようと思います。

入学して初めて顔を合わせた時には、それぞれ緊張していたのだろうか、やることをやってしまうとそそくさと帰ってしまいました。こんな状態が続くのかと寂しくも思っていたのですが、教授の一言「交流会をしよう。」をきっかけに我々はBクラスという集団の楽しさを知りました。その後は少しずつですが、クラスの一人ひとりが会話を楽しむようになっていきました。後期になると、各グループでの協力した調査活動を通し、さらに仲が深まっていきました。

クラスアドバイザーの高橋隆行教授にも時には厳しく、時にはユーモアも忘れずに、大学一年目の我々を支えていただきました。

これらが、私が今執筆しているまでのBクラスの平成17年度であります。

Cクラス

Cグループアドバイザー 山口 克彦

C組では「Mission Impossible」というテーマで後期の教養演習を半年間行いました。7班に分かれて競い合い(?)ながら3つの課題をこなしました。



写真1

1つめは5階から生玉子を落として割らないように!との指令のもとに各班いろいろな工作をしました。パラシュートあり、クッションありと皆わいわいと手作りをしながら秋の夕暮れに実際に落としてみて、7班中4班が無事にひび割れない玉子を手にしました。写真1は投下前の作品を並んで見せているところです。

2つめは言葉で絵を伝達する、で伝達のプロトコルを各班独自に考えて、制限時間内に影絵を相棒にどれだけ正確に伝えられたか競いました。

3つめは各班自ら「Mission Impossible」の課題を考えて、その解決を目指しました。各班の課題は「暗闇で物を見る」「火をおこす」「時計を作る」「無人島で爪を切る」「集光器を作る」「水に浮く物を沈める」「消しゴムのカスから消しゴムを作る」。この中で学類全体の発表会に選ばれたのは爪切りを手作りした班でした。正月明け早々にも発表間近とのことで大学にきていろいろ試行錯誤してくれました。

写真2は4月のはじめに撮った集合写真です。これからみんながどんなふう成長していくか楽しみです。



写真2

Dクラス

Dグループアドバイザー 石田 葉月

Dクラスでは、1年生後期の教養演習Ⅱにおいて、一人一人がそれぞれ関心のあるテーマについて調べ、その内容をプレゼンテーションするという作業を行いました。

1年生は、前期の教養演習Ⅰにおいて既に、文献検索のガイダンスを受けていますので、そこで得たノウハウをさっそく生かしてみよう、というのが狙いでした。

とはいえ、「自由なテーマ」を選ぶほど難しいことはありません。そこでDクラスでは、「技術と社会」という大きなテーマから、個々の技術がもたらす正の側面および負の側面をまとめていこう、ということになりました。

学生が取り上げた技術は、多岐にわたりました。遺伝子組み換え、指静脈認証技術、カーボンナノチューブ、生分解性プラスチック、人工臓器、など、それぞれのよい面を評価しつつも、謙虚な姿勢で問題点を指摘することに努めました。

Eクラス

Eグループアドバイザー 島田 邦雄



皆で飛ばした紙飛行機と発表会の風景

Eグループには、男子16名、女子6名の計22名がいます。皆まじめで、授業にも真剣に取り組んでいます。1年の授業科目の一つに「教養演習Ⅱ」というのがありますが、皆で紙飛行機はなぜ飛ぶのか、どうしたら良く飛ぶのかというテーマに取り組み、発表会を行いました。写真のような紙飛行機は、競技用で使われるキットの入門編にあたるもので、これを実際に作って飛ばしました。中には、何十メー

トルも飛ばした人もいて、皆んなで楽しく取り組みました。

このようにEグループは、授業以外にも、活発な学生の集まりです。

Fクラス

Fグループアドバイザー 杉森 大助

写真は4月に撮ったクラス集合写真です。女性5名、男性16名のクラスで、遊佐太一君がクラス代表、室伏昭宏君が副代表です。出身地は沖縄から岩手県までで、多くが東北出身者で、うち県内出身者は11人です。



既にある程度明確な将来の目標を考えている人、まだ迷っている人さまざまですが、アドバイザーとして彼ら彼女らを見守りたいと思っています。まずは、この一年間大きな事故、事件もなく、全員無事進級できそうなものが何よりです。また、学生から悩み相談なども今のところ受けておりませんので、皆充実した大学生活を送っているものだと思っています。もし、何かご相談、心配事がありましたら、杉森 (Tel 024-548-8206) まで連絡していただけますようお願い致します。

さて、クラスの紹介に戻りますが、4月に神林君がカラオケ大会を企画して、福島駅前で盛り上がったようです。6月下旬には大学近くの公民館でクラス懇親会(すし&焼きそばパーティー)を開き、楽しいひとときを過ごしました。

Gクラス

Gグループアドバイザー 黒沢 高秀

Gクラスでは教養演習Ⅱという授業で英科学誌 Nature の論文の読解に取り組みました。各自で興味のある論文を選び、翻訳し、その内容を発表するというものです。最初は「英語は苦手」という声がほぼ全員から挙がりましたが、科学論文の最高峰に果敢に挑戦してくれました。発表はコンテスト形式で行い、最優秀には、タンザニアでの人食いライオン被害の原因を究明した C. Packer らの短報をもとにした、横山紘樹君の「Lion Hard」と題した発表が選ばれました。横山君はクラスの代表として全体発表会で発表しました。上位には近廣弓恵さんの「粒子間にはたらくチカラ」、宍戸仁美さんの「人の非陳述記憶」、梅原亮君・阿部将平君の「ロボットの進化～自己複製ロボットの誕生」、菊地弘生君の「ライオンの攻撃 in タンザニア」、松橋寛伸

君の「音」が選ばれました（写真は松橋君の発表スライドの前での記念撮影）。福島大学にこれまでいなかった「理工学部の学生達」の今後の活躍を大いに期待させる内容でした。



Hクラス

Hグループアドバイザー 後藤 忍

Hグループは、男性16名、女性5名（うち1名は休学してドイツ留学中）の21名です。グループ・アドバイザーは、環境システムマネジメント専攻所属の後藤（環境計画論）が担当しています。リーダーを中心に、元気で仲の良いグループです。2005年9月22～23日には、地域学習施設の見学とレクリエーションを兼ねて、福島県霊山町にある「霊山こどもの村」（地球をテーマにした展示館あり）を訪れ、霊山登山（山頂の標高825m）を行いました。



第II Semesterでは、「手塚治虫の世界～生命・科学・環境～」というテーマで演習を行いました。理工学類の学生に求められる倫理的な素養について、手塚治虫の作品に込められたメッセージを題材に議論し、自ら考えることを狙いとして設定しました。学生たちは、理工学類の3つの専攻の中で、現時点で関心のある専攻ごとにチームをつくり、それぞれの領域に関連するテーマを設定して調査を行うとともに、その発表内容に基づいて議論しました。そして、最後には、「メッセージの送り手になろう」ということで、Hグループのメッセージを映像作品として制作し、全体発表会で映写しました。発表会前は連日深夜までの作業となったため、学生たちも大変だったと思いますが、その甲斐あってプレゼンテーション・映像作品共に、素晴らしいものに仕上がったと思っています。

Iクラス

Iクラス学生 田村 壮礼・渡辺 康実

I組が集まる講義は教養演習です。教養演習IIでは、2人一組で発表準備と発表を行いました。題材として、福島の果樹栽培、日本酒、ビール、ワイン、みそ、ヨーグルト、チーズ、水、ゴミの問題、刀、などを選びました。



写真①

学類全体での発表会はクラス代表が発表するのですが、題材はヨーグルト・チーズを選び、クラス全員を再編して、酪農、乳製品と健康、チーズ製造の班に分かれて、発表準備を行いました。実際に牧場見学、チーズ製造を行い、発表に臨みました。チーズはカマンベールチーズを、白川さんのおうちの協力で頂いた非加熱牛乳を原料に製造しました。乳酸菌とレンネットで起きる凝固は劇的でした。上澄み（ホエー）の味も味わうことができました。ホエーの味は結構美味しいものでした。写真①は製造したチーズを試食しているところです。なお、牛乳以外の材料と資材は後援会の経費で調達しました。

順調に進んだ発表準備でしたが、発表当日会場で、発表資料のコンピューターファイルが壊れてしまっていました。しかたがないので、発表者の木下君はスライドなしの講演を行いました。それなりに立派な発表でしたが、非達成感が残ってしまいました。後日、別のクラスの集まりに招かれて発表させて頂いたり、就職委員会の講演会の前座として発表させて頂いたり、たいへん良かったです。

後期試験終了後、春休みに入り、まちなかでクラスアドバイザーの難波先生を迎えて食事会を開きました。写真②はその時の写真です。I組は十人十色な学生がそろい、多角的である一方、個性を認め合う愛のあるクラスです。二年生後期からは専門に分かれますが、クラスのつながりを失わず、それぞれの専攻を越えた活動を目指したいと思います。



写真②

学生生活支援便り

学生生活委員会 黒 沢 高 秀

随時紙面をお借りして、後援会の皆様へ共生システム理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしています。幸い本学類では今のところ大きな事件、事故は起きていませんので、盗難・紛失事件について、新しく設立された学類独自の学生表彰制度についてご報告します。

【盗難・紛失にご注意】残念ながら最近、学内で盗難事件が頻発しています。12月以降、9件もの現金・カード類の盗難が学生課に届けられています。このうち2件は理工学類の学生が被害を受けています。特にサークル棟更衣室、図書館で複数の盗難事件が起きています。財布や荷物を置いてその場所を離れた隙に荷物や財布を開けられ、現金等を抜き取られるものが大半です。大学構内へは誰でも自由にはいることができます。また、大学を専門に渡り歩く泥棒すら知られています。学生には掲示等で注意を喚起していますが、街の中のように不特定多数の人が行き交う場所と同様、貴重品の管理には厳重な注意を払うようにお伝え下さい。盗難、紛失があったらすぐに学生課に届けて下さい。盗難の場合でも、現金以

外が発見され届けられるケースが多くあります。

学生課（電話 024-548-8028）受付時間：月～金 9：00～16：30（時間外でも可能な限り対応します）

【理工学類学生表彰制度の新設】理工学類では、学業に優れた学生やすばらしい活動・活躍をした学生個人や団体を奨励するために、以下のような表彰制度を学類独自に新設しました。表彰式は来年度の春におこない、賞状および副賞を授与します。副賞の購入には後援会費を充てさせていただきます。

1. 平成17年度学類長賞 Dean's Award

平成17年度に共生システム理工学類もしくは理工学類学生に大きく寄与した学生もしくは団体に対する表彰制度です。教職員2名以上により推薦（3月20日締切）された学生もしくは団体の中から、学類長、評議員および学生生活委員会による選考委員会が審査し、決定します。

2. 平成17年度成績優秀者 High Grade Point Average Award

平成17年度の成績優秀者、つまり一定の単位数を取得した人のうち、成績の平均値 Grade Point Average (GPA) がとても高かった人に対する表彰制度です。

次号の『後援会だより』で学類長賞および成績優秀者の受賞者や、学類長賞の受賞理由についてお伝えする予定です。

共生システム理工学類 就職支援について

就職支援委員会 生 田 博 将

早いもので、新入生の入学より1年間が過ぎようとしております。現在、共生システム理工学類のみならず、全学を挙げて就職支援のための組織体制の整備や就職先の開拓など、就職支援に対する取り組みを行っております。

本学の就職支援は、教員により構成される就職支援委員会と事務組織である学生課就職支援室が協調して行っております。就職支援委員会は、就職支援の基本方針の決定、就職支援事業企画の策定、学生の就職支援に関する連絡調整を行っております。一方、就職支援室は就職情報の収集と提供、就職相談体制における教員と学生との連絡調整などを行っております。

平成17年度に、全学を挙げて企業、公務員、教員それぞれの分野の就職に適切に対応するため、就職支援委員会の中に「企業部会」「公務員部会」「教員部会」が設置されました。それぞれの分野で、就職ガイダンスを企画・実施しており、平成17年度については、1年生から4年生まで合わせると、合計28回実施致しました。このうち、3年生向けのガイダンスが8割を占めますが、1年生のうちから授業のキャリア学習プログラムと連携し、就職を見通した将来への道筋を考えさせる試みを行っております。

一方、就職情報の提供に関しては、就職支援室に蓄積されており、学生は学年を問わず閲覧することが可能です。インターネットを用いた就職支援の取り組みとして「就職の広場」と題する福島大学の就職情報に関するホームページもあり、福島大学のホームページよりリンクされておりアクセス可能です。また、平成17年度より合同企業説明会を実施しております。今年の2月に行われた合同企業説明会には全体で180社が参加し、述べ300名を越える学生が熱心に企業の説明を聞いておりました。さらに、就職支援室では年間を通じて就職・進路相談を行っております。さらに、就職・進路に関す

る相談体制を強化するために、企業経験者であるキャリアカウンセラーに来学して頂いております。水曜日の午後だけではありますが、セミナーおよび就職・進路相談を行っており、好評を博しております。現在のところ、文系が中心の対応ですが理系の就職・進路相談に対しても対応できるよう、今後拡充を図る予定です。さらに、これらの取り組みを保護者の皆様方にご説明するために、福島大学祭開催期間中の平成18年11月4日(土)に「親のための就職セミナー」を開催する予定にしております。

全学的な取り組み中心に就職支援体制につきまして記して参りましたが、共生システム理工学類に関しては、平成17年度から平成20年度まで4年間の就職支援に関する基本計画を策定して就職支援活動を行っております。平成17年度は、今後の就職支援活動の基本計画の策定、就職先の開拓方法の検討および学生に対する理系の仕事に関する入門的なガイダンスを行いました。平成18年度は、平成19年度以降に本格化する共生システム理工学類の学生の就職活動に備えるため、就職先の開拓を積極的に推し進めるとともに、学生の社会の一員として働く意識を高める目的で、キャリアモデル学習と連携して職業人の講演会の実施や、職場体験であるインターンシップの実施を予定しております。さらに、将来の進路選択の一助となるよう、学類を挙げて、研究会の実施や工場などの職場見学の実施を計画しております。

平成18年度より専門教育が本格的に始まりますが、理系では大学で学んだ専門性が必須とされる職種の割合が高く、その専門分野が多岐にわたるため、学生の皆様には、将来を見据えて、大学院への進学を含めた進路選択について熟考することを期待しております。理系の専門家として、高い専門性と幅広い見識を有する人材として、社会に貢献できる力をこれから養ってほしいと思います。

微力ながら就職支援委員として、将来の就職活動の動きにきちんと対応できるよう、就職先開拓や就職に関するガイダンス企画などを通じて、就職支援に関する環境を徐々に整えていきたいと考えております。後援会の皆様方には何卒ご支援頂きますようお願い申し上げます。

共生システム理工学類 就職支援グランドデザイン

	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
学 類 の 活 動	キャリア科目等 【職業選択と学習（キャリア形成論）】 自分なろうとする職業人に必要な専門性、学力をつけるための学習の発見—自己実現を早期に図るための支援	【職業選択と適性（キャリアモデル学習）】 モデル学習の一つとしてさまざまな職業人の講演会開催企業交流会への参加	【職業体験（インターンシップ実施）】 職業体験記をまとめさせ、報告会を開催。新1年生も報告会に参加させる。			【就職活動】 3月期の就職活動を卒業指導教員が支援する。	【就職活動】 卒業指導教員が対応する。	【就職活動】 卒業指導教員が対応する。	
	シンポジウム	【職業選択の具体化】 インターンシップ事前指導			【具体的な職業選択】 インターンシップ事後指導、就職活動支援				
	研究会・交流会等	【研究会・交流会開催】 グループアドバイザーを中心に研究会・交流会の開催・支援（後援会が中心で支援）	【企業交流会への参加】 学類全体として、研究会、交流会へ学生の参加を要請	【インターンシップ経験交流会の開催】 専攻ごとの開催を行い、1年生にも聴講させる。新グループアドバイザーが中心になり助言指導と総括					
	企業開拓	※「ねらい」 各グループアドバイザーの体験を中心に職業に自分のスキルや個性を適合させるにはどうしたら良いかなどの職業選択や報源としての役割を果す。	【工場、職場見学】 6コース、各専攻2コースを準備、バス1台貸切とし40名から50名検討 ※教育経費の確保			【工場、職場見学】 6コース、各専攻2コースを準備、バス1台貸切とし40名から50名検討 ※教育経費の確保		【工場、職場見学】 6コース、各専攻2コースを準備、バス1台貸切とし40名から50名検討 ※教育経費の確保	
組 織 体 制		【企業訪問】 地元企業への手分け訪問 ※インターンシップ受け入れと合わせて可能な限り広報			【企業訪問】 地元企業への就職活動開始のパンフレットと書簡を持参し、企業訪問		【企業訪問】 地元企業への学生売り込み（グループアドバイザー、卒業指導教員、交通費等の必要経費を後援会予算化する）		
					【就活支援組織体制】 就職活動を支援するための組織体制の検討 ①就職委員会および卒業指導教員による職業選択・進路選択の支援組織体制 ②オフィスアワーの導入	【就職支援組織体制】 春休みの就職活動を支援するための組織体制の立ち上げ			
			【他大学への視察】 学類の支援体制を検討するため、他大学を視察	【就職支援体制の検討】 カウンセリングを含めた就職活動を支援する体制を検討	【就職支援体制の検討】 学類教員の支援を得て、職業選択・進路選択と就職活動の助言教員組織と就職カウンセリング体制の立ち上げ	【就職アドバイザーの導入】 可能なならば早い時期に、民間企業を定年退職したOBの活用など		【就職指導及び内定集約】 就職活動の具体的な指導および採用の合否の集約 ※就職委員会および卒業指導教員が対応	
就 職 支 援 委 員 会 の 活 動	講演会・広報	【職業人による講演会の開催】 一授業と組ませた開催 ※基礎基本教育経費等の確保		【職業人による講演会の開催】 一授業と組ませた開催 ※基礎基本教育経費等の確保		【職業人による講演会の開催】 一授業と組ませた開催 ※基礎基本教育経費等の確保		【職業人による講演会の開催】 一授業と組ませた開催 ※基礎基本教育経費等の確保	
	【パンフレット作成】 企業向け求人票に共生システム理工学類のページを追加	【パンフレット作成】 企業からの本学類の目指す人材育成についての意見聴取					【採用された企業への広報活動】 次年度にもつなげるための努力と対策		
	【企業訪問】 ①現在のスタッフが関連している企業との調査を行い、インターンシップ等の可否も含めた交渉開始。 ②商工会議所、コンサルタント会社等を最初に訪問し、そこで得た情報をもとに企業訪問を行う。	【企業訪問】 地元企業への手分け訪問 ※インターンシップ受け入れと合わせて可能な限り広報	【企業訪問】 地元企業への就職活動開始のパンフレットと書簡を持参し、企業訪問		【企業訪問】 地元企業への就職活動開始のパンフレットと書簡を持参し、企業訪問		【企業訪問】 地元企業への学生売り込み（グループアドバイザー、卒業指導教員、交通費等の必要経費を後援会予算化する）		
	【企業訪問】 主な企業への訪問依頼（就職委員、その他）	【企業訪問】 主な企業への訪問依頼（就職委員、その他）	【企業訪問】 主な企業への訪問依頼（就職委員、その他）		【企業訪問】 主な企業への訪問依頼（就職委員、その他）		【企業訪問】 主な企業への訪問依頼（就職委員、その他）		
就 職 支 援 室 の 活 動	【パンフレット送付】 企業向けパンフレットの送付		【パンフレット送付】 就職活動開始のパンフレットと書簡を送付、合わせて企業の求人情報の送付を依頼	【就職試験対策】 就職支援室を中心に就職試験の受験方法、面接試験の対応等、具体的な就職試験への対応講座を開設	【パンフレット送付】 就職活動開始のパンフレットと書簡を送付、合わせて企業の求人情報の送付を依頼	【就職試験対策】 就職支援室を中心に就職試験の受験方法、面接試験の対応等、具体的な就職試験への対応講座を開設	【就職試験対策】 就職支援室を中心に就職試験の受験方法、面接試験の対応等、具体的な就職試験への対応講座を開設	【パンフレット送付】 求人情報の送付依頼の書簡を送付	
				【企業説明会の実施】 企業関係者の就職支援室の利用（可能なならば、少人数対象の企業説明会の実施、先輩訪問）		【企業説明会の実施】 企業関係者の就職支援室の利用（可能なならば、少人数対象の企業説明会の実施、先輩訪問）			

編集後記

平成16年4月7日に第1期生を迎えてまもなく1年がたつ。研究実験棟の工事も写真のように順調にすすみ完成を迎えつつある。実験棟に設置される設備も1年かけて検討され、その設置がはじまり4月からの実験準備が進行している。残された課題は学生側の準備である。1年次から実験をしたいという学生からの強い要望で、研究室体験や、企業見学等積極的に実施してきたが、参加者は限られ、提供されたプログラムを積極的に利用している学生は必ずしも多くない。共通教育や基礎科目を1年かけて学んだものの、それをマスターできていない学生も少なからずいる。さまざまな高校から、さまざまな過程を経て福島大学理工学群に入り、大学に入ったとたん一緒にスタートラインに並ばされた。そのため大学では必要な高校の学力をつけてもらうために高校の授業を補習教育として実施してきた。しかし、これにもついてこれない学生がいる。実力社会に対応した人材養成をするためには、教える側も厳しい。確かな学力、スキルを身につけるカリキュラムを準備しても、それを積極的に活用し、自らの実力をつけるのは学生自身でしかない。かといって放置して済む問題でもない。グループアドバイザーによるさまざまな相談に応じるシステムがある。学習環境提供者とその環境利用者のコラボレーションがなければ人材育成はうまくいかない。これが大学の価値を決めることにもなる。大学教育でも社会ぐるみで人材育成が必要になっている。



2005年11月15日
大型クレーンで鉄骨の積み上げ



2006年2月25日完成間近の理工学群研究実験棟

後援会担当 渡邊 明